第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと併せてご活用ください。

～産業のグローバル展開と経済のサービス化の接点を日本とドイツの比較から探ります。

2012/5/1　「空洞化緩和と経済サービス化を両立する方法 ～日独比較からみた輸出と国内サービスの雇用創出の相違～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～危機は遠のいたのか、それとも後戻りか。世界金融市場のこれからの展開を予想します。

2012/5/8　「成長力を失った日米欧、市場の不安定な動きは続くか ～ＦＲＢの追加緩和期待が続くかがカギ～」

掲載カテゴリ：嶌峰義清の「マーケットウォッチング」

～日本銀行調査から日本人の貯蓄行動、若者の資産形成がどこに向かっているのかを考えます。

2012/4/24　「『家計の金融行動に関する世論調査』(2011 年)を読む ～若年世代で進む貯蓄なし世帯の増加～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～雇用回復、財政危機、成長維持。課題に直面する米国、欧州、中国経済について分析します。

2012/4/18　「米国　ＦＲＢの金融緩和姿勢に変化なし ～目先は６月以降に追加緩和、2014 年以降も緩和継続へ～」

2012/5/7　「フランス大統領選挙でオランド候補が勝利 ～さよならメルコジ、ようこそメルランド～」

2012/5/1　「豪州準備銀は予想外に大幅利下げを実施 ～豪ドルの為替相場はしばらく弱含む展開が予想される～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、西濵徹の「アジア・新興諸国経済」

編集後記

物価下落が続いている国は世界を見渡しても日本以外あまりない。賃金とサービス価格がともに下落傾向であることが注目されてきた。賃金と物価はどちらが原因でどちらが結果か。生産性が低いから経済成長も賃金上昇も覚束ないのだとも、新興国との輸出競争が物価と賃金を押し下げているとも言われる。

その一方で、国際市場では原油など資源価格が上がりやすくなっている。輸出品の価格が値上げできず、エネルギーの輸入価格が上昇すると、日本から海外へと大きな額の所得が流出することになる。ところがこの流れは意外に見えにくい。というのも景気判断でもっぱら用いられる実質経済成長率は、輸出と輸入双方から物価の動きを除いたＧＤＰをもとに計算されるので、この「交易損失」は反映されていない。冷めた日本とヒートアップする世界とのギャップがこんなところにも隠れていることには気をつけたい。　（H．U）